

禅の哲学とマインドフルネス、その現代的課題

=== 目次 ===

第1章 禅の哲学	1
第1節 禅を現代的マインドフルネスに活用 (1)	
第2節 道元禅師の思想哲学の解釈も 専門家の間でまちまち (2)	
第3節 井筒俊彦の禅体験の説明 (3)	
第4節 ジョン・カバット・ジンも東洋に 深い自己があることを肯定 (3)	
第5節 道元禅師に言及する西田幾多郎 (4)	
第6節 道元禅師の生涯 (4)	
第7節 禅の哲学の解明の方針 (5)	
第2章 道元禅師の思想と哲学	6
第1節 自己の根源 (6)	
第2節 身心脱落、脱落身心 (6)	
第3節 信解行証 (7)	
第4節 出家主義 (8)	
第5節 文字研究の学者にはわからない (10)	
第6節 中国禅の肯定 (11)	
第3章 道元禅のマインドフルネスへの活用	12
第1節 只管打坐 (12)	
第2節 善悪を思わず (12)	
第3節 我見我執己見を捨てよ (13)	
第4節 生死をはなれ佛となる (15)	
第4章 これからの課題	16
第1節 核心が失われ社会性に弱い (16)	
第2節 仏教の改革は宗門の内からと外から (18)	